

# 国際バカロレア認定校における 教育プログラムの効果検証 - 批判的思考に着目して -

学籍番号 229313  
氏名 秋山球登  
主指導教員 鈴木真由子  
副指導教員 手取義宏

## 1. はじめに

実習校の組織の一員として学校教育活動に参画した上で、改めて実習校の特色ある教育についての実践研究を進めたいと考えた。国際バカロレア認定校である実習校では、批判的思考の育成に向けた様々な教育活動を通して、「社会に貢献する協調力をみがく」という教育目標の達成を目指す。実習校で日々培われる教育の効果把握に貢献するため、生徒たちが今、批判的思考力をどの程度身につけられているのかを調査して可視化し、実習生の立場で検証することが、本研究の目的である。

## 2. 本研究における批判的思考の定義

道田(2015)は、批判的思考を「批判的な態度(懐疑)によって触発され、創造的思考や領域固有の知識によってサポートされる論理的・合理的な思考」と定義し、その諸概念を「批判-合理性-反省性」という3要素で解釈した。また楠見(2011)は、批判的思考を「論理的、客観的で偏りのない思考であり、自分の推論過程を意識的に吟味する反省的思考」と定義した。その他、多様な学者の視点なども参考に、本研究における批判的思考を、「何らかの物事について判断する際、多様な考え方をする他者の意見に耳を傾けながら、自己の考えを一度立ち止まって客観視することで、論理的な根拠を持って主張するための思考」と定義した。

## 3. 実習校における学校教育活動

実習校は、大阪府立の中高一貫校である。また国際バカロレア認定校であり、全国初の公設民営校であるという特徴も持つ。「社会に貢献する協調力をみがく」という教育目標に沿い、子どもたちを国際社会で活躍し、主体的に行動できる人間へと成長させるため、先進的な教育プログラムで日々の学校生活を運営する実習校では、グループ/ペアワークや、論文形式の課題を取り入れる授業など、特色ある様々な教育プログラムが施されているため、「自身の考えを言葉にして他者に伝えたり、文章として書いたりすること」に対して、とても前向きな姿勢で取り組む生徒が非常に多い印象を受ける。

## 4. 批判的思考に関する調査の実施

生徒の批判的思考力を図るため、本調査では既存尺度を参考に、アンケートを実施した。使用する尺度は、楠見ら(2016)の児童・生徒用一般的批判的思考態度尺度(10項目)と、児童・生徒用学習場面の批判的学習態度尺度(10項目)を参考に作成し、この質問項目について4件法で回答を得た。また実習校の教育効果検証に向けた補足的な資料を得るため、実習校の特色ある授業に対する質問を中心とした、4つの自由記述式質問の回答も同時に得た。先行研究の結果や筆者が実際に見聞きした生徒たちの様子を踏まえ、本研究では「仮説1:実習校での教育を長く受ける生徒ほど、批判的思考力が向上する。」「仮説2:国際バカロレアコースの生徒は、その他のコースの生徒よりも批判的思考力が向上する。」という2つの仮説を立て、その検証のため発展課題実習II(2023年10月2日~2023年10月31日)の約1か月、web調査で回答を得た。

## 5. HADでの分析を通じた実習校の教育効果検証

仮説を検証するため、収集した回答をHAD(清水, 2016)で分析した。その結果、仮説1・2ともに支持されなかった。一方で、仮説1については生徒の在籍年数が長くなるほど一般的批判的思考態度尺度の得点が高くなり、仮説2については理系コースと国際バカロレアコースというコース選択の違いによる批判的思考力の変化について、一般的批判的思考態度尺度や学習場面の批判的思考態度尺度と正の相関があることが明らかとなった。また記述式質問の内容分析のため、樋口(2020)のKHコーダーにおける、共起ネットワークを使用したテキストマイニングを行った。その結果、「自分」「意見」「考える」などの単語が多く抽出されたと共に、「自分自身についてより深く考えることができた」「他の人の意見を傾聴し、より考えを深めることができた」など、それらの単語が同じ文章内で使用される傾向にあることが明らかとなった。以上より、実習校での教育を長く受ける生徒は日々の教育活動を通して、あらゆる分野への興味・関心能力や探求心などが、自然と身についていると考えられると共に、国際バカロレアコースの生徒は特有の授業カリキュラムを通して、批判的思考力を向上させているであろうことが、分析結果から考察できた。

## 6. おわりに

本調査を実施した上での3つの問題点として、①調査回答者の確保が不十分な点、②本調査についての時間的・空間的比較ができなかった点、③批判的思考の技能(パフォーマンス)を測定することができていない点が挙げられる。特に3つ目の問題点については、椎名ら(2022)のトゥルーミン・モデルによる論理的思考の枠組みを利用することを解決策として提案する。このトゥルーミン・モデルのように、批判的思考の要素を切り取り、育成するための具体的な方法などは幾つか提示されており、それらを利用することで、批判的思考の技能面を測定することもできるのではないかと筆者は考える。(2029字)

※引用・参考文献については本誌末尾の<要旨>にて記入。